みなと

みなと 67 号　　2023 年 6 月 1 日
兵庫県声の図書赤十字奉仕団
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-4-5
日本赤十字社兵庫県支部内
(Tel) 078-241-9889　(Fax) 078-241-6990
代表者　中島久美子
編集者　土岐淑子

委員長就任にあたって

委員長　中島久美子

今年は声の図書奉仕団が創設（１９６３年６月１日）されてから６０周年を迎えました。活動への熱い思いや日々の積み重ねに、先輩諸氏、現在活動されている皆様に感謝いたします。

活動を続けてこられたのには、支部事務局職員のサポートが大きかったと思います。

赤十字の奉仕団は［Mission statement］にしたがい活動しています。そこには「わたしたちの基本原則」があります。

わたしたちは、世界中の赤十字が共用する７つの基本原則にしたがって行動します。
人　道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
公　平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
中　立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
独　立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
奉　仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
単　一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

ジャン・ピクテにより、人道の敵は利己心、無関心、想像力の欠如であると言われています。

そして、奉仕団で活動するうえでは「赤十字奉仕団員の信条」があります。

・全ての人々の幸せを願い、陰の力となって人々に奉仕する
・常に工夫して、人々の為により良い奉仕ができるよう務める
・身近な奉仕を広げ、全ての人々と手をつないで、世界の平和に尽くす

入団後に一度は聞かれたことがあるかと思います。新しい年度を迎えるにあたり、初心に立ち返りませんか。

新型コロナは季節性インフルエンザなみに感染症分類が５類になり、新型コロナの情報がリアルタイムではわかりにくくなりました。新型コロナという病気の特性が変わるわけではありません。残念ながらコロナ前と同じように活動はできないと思われます。したがって交流会は検討が必要でしょうし、団員の高齢化も考慮が必要であると考えられます。
本社の方針を奉仕課に伺いながら、皆様と共にこれらの問題を考えていきたいと思います。

コロナ感染症は一人ひとりの英知を持って対応することが大切です。引き続き、感染予防に努めていただくようにお願いいたします。

活動への熱い思いを今後も継続できることを願っています。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

２０２３年度本部役員

委員長	中島久美子	（青年）	新任
副委員長	松永和子	（そよかぜ）	再任
副委員長	松岡真紀	（はあもにい）	新任
会計	前川芳子	（ともしび）	再任
会計監査	高橋千鶴子	（こすもす）	新任
書記	土岐淑子	（神戸ＹＷＣＡ）	再任

新本部役員のひとこと

副委員長　松岡真紀（はあもにい）

今年度、副委員長をさせていただくことになりました。
2017年に入団して7年目になります。所属グループではいつまでも新人気分が抜けず、経験豊かなメンバーに頼り切っていたそんな時、コロナ禍で活動が停滞。遅ればせながら「心地良さに甘えてばかりでいいのか」と思うようになりました。
そのタイミングで本部役員のお仕事を頂きました。
一から学び、いくらかでもお役に立てたらと思っています。
2年間どうぞよろしくお願いいたします。

会計監査　高橋千鶴子（こすもす）

この度、会計監査をさせていただくことになりました、高橋千鶴子です。運営委員は数年前に経験いたしましたが、活動自粛ということもあり、所属グループ外の方達との交流が果たせず、分からない事ばかりでお役に立てるのか不安ですが、皆様に教えていただきながら、楽しく活動したいと思っております。。
どうぞよろしくお願い致します。

前本部役員の退任あいさつ

前委員長　足利教治　（はあもにい）

この度２０２３年４月２２日の声奉の総会において承認され、委員長を退任致しました。就任以来４年間、途中投げ出し挫折することなく任務を満了出来ましたことは、ひとえに団員の皆様のご協力のお陰と深く感謝しております。支部の皆様方には大変お世話になりいろいろとご支援を頂き有難うございました。又、その年々一緒にご苦労頂いた役員や運営委員の皆様、大変お世話になり有難うございました。

思い起こせば２０１９年２月、はあもにいGから声奉の役員候補として送り出され、３月２日新役員３名で役割分担の相談が行われました。委員長の席を譲り合うバトルが１５分？以上続いたかと思いますが、とうとう寄り切られ委員長就任が決まりました。以後４月の総会まで何とか辞退する手段は無いかと、いろいろ摸索しましたが明快な手段も無く、退団も考えましたが今更逃げ出すのも悔しいし、「とにかくやるだけやって駄目だったら降ろしてもらったら良いのでは？」と思い直し委員長を務める決断をしました。

何も解らない状態の船出でしたが、役員や周囲の皆様に助けて頂きながら２０１９年は通常の活動が行われました。明けて２０２０年１月新型コロナ感染者が兵庫県でも出現し、その後感染者も増加し４月には緊急事態宣言も発令されました。

声奉の活動も３月中旬から約２か月間、活動を完全休止することに決定し、全く未知の状態に突入しました。声のアルバム発行も連続５か月休刊を余儀なくされました。その後は新型コロナの感染状況に応じ、ルームの予約制を採用し、使用人数制限を行い感染予防に努めながら活動を行いました。声のアルバムも、時に応じ縮小版を交えて隔月発行や休止の状態が続きました。総会も２年連続でネット総会、交流会も３年連続で中止となりました。声奉の活動方針も都合１５回発行しましたが、これまで皆様のご協力により声奉からクラスタが発生することもなく活動できたことに、本当に良かったと安堵しているところです。

退任した今、委員長の重圧から解放され肩の荷が軽くなった毎日を過ごしていますが、今後は声奉活動に少しでもお役に立てるよう努めて行きたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。有難うございました。

前副委員長　中原昌代　（ことばの花束）

長年、声奉に所属していながら本部役員をお引き受けするのは初めてのことで早かったような、長かったような２年間でした。

特にこの２年間は、今まで経験したことのないコロナ禍に見舞われた大変な期間でしたが、委員長を中心として役員みんなで協力し合い、なんとか無事に任務を終えられたことに感謝いたします。しかし、副委員長として委員長の右腕とならなくてはいけなかったのに、微力ゆえ、お力になれず申し訳なく思ってます。しかし、私としては、今までなかなか交流できなかった他グループの皆さまと新たなつながりができたこと、そして声奉の活動を理解できたことなど、良い経験ができたことは大きな収穫でした。ありがとうございました。
これからも声奉の一員として、楽しみながら頑張っていきたいと思います。

前会計監査　与茂田恭子（こすもす）

最初は、先の見えないコロナ禍でどんなふうに活動をするのかしら、パソコン苦手で大丈夫なのかしらと不安でした。そして、足利委員長のもと、リスナーさんとの交流がいつか元通りにできることを願いながら、コロナ状況と向き合った日々でした。
足利委員長には、すべてにおいてリーダーシップをとっていただき、他の役員の方々にも助けていただき、感謝以外ありません。これからも一団員として活動に協力させていただきたいと思います。本当にありがとうございました。

デイジー班

「みなと」の原稿依頼があった時、２０２２年１１月からデイジー班マザーチームに参加して「声のアルバム２０２３年５月号」で５回目の作業に携わるマザーチーム１年生の私は「何を書けばいいの？」と戸惑いました。入会した時はデイジーって花の名前？と思っていたような私がマザーチームに入ったのは「正しい編集」をグループで共有出来るようになる為です。
というのも、私が入会した時のグループは CD ではなくテープで録音する時代を担っていたようなベテランの方たちが多く、編集も担当の方がいて特別のもののように思っていました。私は「新人さん」として作品に参加させてもらうような気持ちで活動していました。
ところが、私が運営委員になった頃からグループの景色がどんどん変わり、ベテランの方々が退会され、長年デイジー編集に携わっていた方も休会、退会されました。その上コロナで活動停止という考えたこともない事態にもなりました。もはや「新人さん」ではいられません。グループ運営を考えて例会、勉強会は ZOOM によりリモートで行い、ファイルもレターパックから ZIP ファイル、ギガファイル便で共有できるようにとグループはアップデートしました。この時「編集出来ます。」と手を上げることが出来たのは 3 人だけでした。

私自身を何とかアップデートさせて、手を上げる 4 人目になれた頃、背中を押してくれる人もいてマザーチームに参加する事になりました。凄く難しい編集をしているのではないか、私に出来るのだろうかと不安もありましたが、マザーチームに入って先輩方を見習い、作業に携わり理解したことは、何か特別な編集をしているチームという勝手な私のイメージとは違って、より良い音や間で聞きやすい CD をリスナーに届けるための再度のチェックをひたすら行うチームであるということでした。むろんマザーCD を作成するための技術、作業を習得することは必須です。

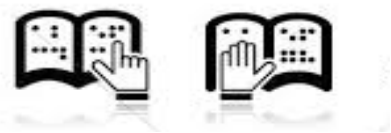
編集は丁寧、根気です。と教えていただいた先輩の言葉どおり丁寧にチェックしていくと毎号、うっかりミスと思われるものがあります。USB 提出時のデイジー図書仕様書の裏面のチェックは全て入っているのですが。
提出したファイルＢのままアルバムに入るものは、特に修正がない 花まる編集と呼ばれている図書です。残念ながらとても少ないです。
何らかの修正をして、音声エクスポートをやりなおした図書はファイルＢＢです。
チェック項目は主にデイジー図書仕様書の裏の項目です。その中でも１４番の各セクションの冒頭に余白が 0.4 秒あるか？ですが、団員には周知徹底はされているはずなんですが無音が無いもの、足りないものがあったり、それよりも 0.5 秒以上の長すぎるものがとても多いのです。
耳でチェックすると違和感もないのですが、マザーチェックは整った図書にするための目でのチェックでもあるので 0.6 秒以上は長すぎるとしてカットして修正し、音声エクスポートをやり直すという一連の作業の手間がかかるのです。
私も最近まで 0.4 秒以上のゆとりがあるほうがいいのではないかと誤った認識をしていました。改めてマザーチェックの基準は 0.4 秒と認識していただくとチェック作業もスムーズに進み助かります。ご協力を宜しくお願い致します。

私は不透明水彩を使用して何度も何度も色を重ねて仕上げていくガッシュ画を描くのですが、先生からいつも「細部を丁寧に描く事で仕上がりが変わりますよ。」と言われています。ですから、編集も同じことと思いながら、これからもより良い CD をリスナーに届けるためにマザーチームの作業に取り組んでいきたいと思います。

ひとつ感じているのはマザーチームメンバーが少ないことです。大人数でする作業ではありませんが、もっとメンバーが増えるといいなと思っています。この先、毎月発行になっても図書が増えても「マザーチームは大丈夫です。」と言えるように。

坂本雅子（神戸 YWCA）

点字班



声の図書の皆様　お変わりございませんか。今年度も皆様と楽しく活動をして行きたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

点字班の主な活動を紹介いたします。

① 点字のお手紙を読みます。花時計の感想は清書をしています。ホワイトボードに掲載し、「みなと」でも紹介していますのでどうぞお読みください。

② 声のアルバムの月ラベルを作成（墨字・点字）

③ メッセージカードを作成しています。学校講習の小学生や中学生・折り紙サークル「かうべ」に差し上げます。「かうべ」はメッセージカードの発案者です。震災の冊子「子どもたちへのメッセージ集」点字冊子作成時からのご縁で、今も続いています。

④ デイジー図書目録を 4 月・5 月・6 月例会＆作業時に作成しリスナーへ発送します。1 年間の新作を紹介しますが、一人でも多くのリスナーさんに聞いて頂きたいと思い、ご挨拶のお手紙を同封します。

⑤ 今年度は団員向け点字講習会を行います。「点字の体験」が今回のテーマです。

点字講習会のご案内

声の図書の皆様の中には、点字器や点筆を触る機会のなかった方もおられるのではないでしょうか。

今年は点字の体験をしてみませんか。6 点の小さなつぶつぶの世界。点筆をしっかりにぎり、点字を書く時のプチプチと鳴る音。ア・イ・ウ・エ・オを基にした、秩序ある５０音。濁音は？拗音は？数字や英語はどう書くの。

疑問は次々と湧いてきます。そして美しい点字というのがあります。凸面に返して、読み取る面をみます。一粒一粒に注目します。つぶつぶの先は割れていませんか？小さなつぶはありませんか？点を触って読む（触読）時にザラザラします。つぶが揃い傷がないのが美しい点字で、読みやすい文字なのです。

この美しい文字を書くのがとても難しいのです。体験して頂くと「なるほどな」とわかっていただけるのではないでしょうか。

点字器と点筆を手に取り、書いてみないと気付かない世界があります。

どうぞ点字の体験にお越しください。

7 月 11 日（火）　13 時～14 時 30 分　　日赤ボランティアルーム

点字班例会＆作業

毎月　第 2 火曜日　　10 時~15 時

8 月はお休みですが、見学のかた大歓迎　‼

門田真弓美（ことばの花束）

朗読・音訳を見直す会

感謝をこめて

　三年前でしょうか、新型コロナが知られ始めて皆の生活に入り込んで来た頃、
「みなと」に文を載せていただいた記憶があります。確か、コロナによって世界が変わってしまいそうな気配を感じるというようなことを書いたと思います。

　そして今、全世界を巻き込んだコロナも感染者の数がぐっと減ってきて終息に向かっているという空気に世界は包まれているように感じます。
マスクをはずし始め、日常生活もほとんど元に戻ってきたように思います。
皆もスポーツ観戦に盛り上がって TV ニュースに映る人々の足取りも軽いように思います。

　でも何か以前の日常とは違った雰囲気を感じませんか。
その中で引きこもり生活が続いたせいか、「本」が元気を吹き返したような話も聞きますし、今までと違った本屋の形が現れたり、読み聞かせの会が増えているとか…。
「朗読」にも何か新しい風が吹いているかも知れません。
遊べないで、研究、勉強に励んだ結果、学問や技術にも新しい道が開け、さらに新しい世界が見えてくるような気がします。

　でも！　とにかく平和でなくてはいけません。
私は昭和 11 年生まれで、終戦は小 3 の時。　戦争を経験しています。
戦争は絶対に駄目です。
心から平和を願っています。
今すぐにでも世界から戦争がなくなって、新しい明るい世界になるように祈っています。

　平和、そしてみんなが幸せに暮らせる日々を祈っています。

　「声の図書赤十字奉仕団」が益々発展しますように。

阿部陽子（はあもにい）

＊阿部陽子さんは２０２３年３月末に退団されました。

単行図書検討会

２０２２年度　単行図書貸出ランキング表

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

順位	書　　名	著　者　名	貸出開始日	回数
1	夏樹静子のゴールデン 12(ダズン)	夏樹　静子	2022. 02. 17	15
〃	ぼくもだよ。神楽坂の奇跡の木曜日	平岡　陽明	2022. 01. 27	15
3	九十八歳、戦いやまず日は暮れず	佐藤　愛子	2022. 06. 09	14
〃	少年と犬	馳　星周	2021. 12. 17	14
〃	立ちどまって考える	ヤマザキ　マリ	2022. 07. 04	14
6	52 ヘルツのクジラたち	町田　そのこ	2022. 07. 27	13
7	暁の旅人	吉村　昭	2022. 07. 21	12
〃	疼くひと	松井　久子	2022. 04. 28	12
〃	月夜の森の梟	小池　真理子	2022. 09. 22	12
10	秋山久蔵御用控　生き恥	藤井　邦夫	2018. 06. 28	10
〃	風かおる	葉室　麟	2018. 10. 11	10
〃	きたきた捕物帖	宮部　みゆき	2022. 01. 27	10
〃	ストロベリーライフ	荻原　浩	2022. 07. 27	10
〃	楽しく生きる	藤野　高明	2021. 11. 18	10
〃	みちづれ　短篇集モザイクエ	三浦　哲郎	2022. 05. 26	10
16	いやし　下町ロケットゴースト　花になるらん　はつ恋　人質の朗読会　八つ花ごよみ　ライオンのおやつ　わかってください　以上 8 冊			9
24	望み　日の名残り　福袋　舟を編む　以上 4 冊			8

新刊図書　17 冊　　延べ貸出冊数　691 冊(昨年度　697 冊)

今年度は、特に新しく蔵書になった書籍が多くランクインしています。ここ数年週平均 13～14 冊の貸し出しが続いており、多数のリスナーがかなりの蔵書を既に読んでおられ、新しい録音図書の貸し出しを希望されていることを反映したと思われます。このようなリスナーの要望に応えられるのも、団員の方々の新たな録音図書製作へのご尽力の賜と、単図会一同大変感謝しています。

今後とも、リスナーの読書環境の充実のため新しい録音図書の充実にご協力をお願いします。

松永照子（ことばの花束）

ＩＴ班

２０２２年２月、ＩＴ関連と機材チームが合併し、ＩＴ班が声奉の作業班として発足してから、足利さんリードのもと、冨沢さん、高橋晶子さん、神坂の４人でリンク集ＵＰと機材管理を進め、まもなく１年半になろうとしています。

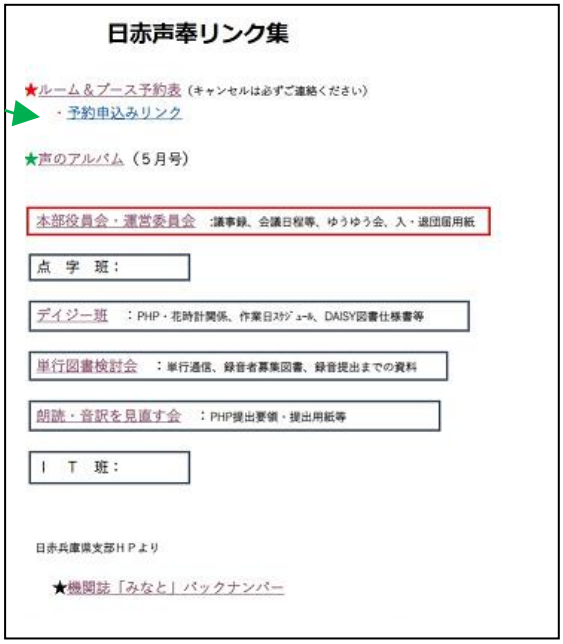
☆リンク集のリニューアル

☆各図書用ＰＣ（Windows10）のアップデート

☆練習・作業のため汎用ＰＣ（Windows7）の確認保管と使用不可ＰＣ廃棄

☆小ブースのＰＣ（Windows11 に）・マイク＆オーディオキャプチャーのリニューア等作業を進めてきました。

ルーム予約は、今年度も足利さんが管理してくださいます。リンク集の予約からお申込みください。リンク集は、メンバーで分野別に担当し更新しています。ご意見・ご希望をお聞かせください。今後も定期的に各ＰＣのアップデート作業を続けていきます。



小ブースのマイク＆オーディオキャプチャー
使用法はＰＣの上方をご覧ください。

２０２３年４月、本部役員から、松永さん・土岐さんが参加くださり、今後の視野が開けてきました。声奉の活動は、録音・編集の殆どをＰＣ作業で行うため、ＰＣ操作が必須です。録音・編集の勉強会を各グループでされているところもありますが、個々に、わからないことやトラブルを抱えながらの作業と思います。各グループから、おひとりずつ、ＩＴ班に参加されたら、声奉の機器の使い方、ひいては、ご自分のＰＣ管理など、情報共有が充実していきます。是非、ご参加お願いいたします。

♪メンバー募集中♪

上半期までに参加されますと、格安ＰＣ購入
アドバイスなど、特典多数！！

神坂順子（こすもす）

プログラム紹介　「つちのこ」

（神戸 YWCA･こすもす）

「**つちのこ**」は、２０１３年４月号まで「青年グループ」が春夏秋冬の季刊誌として製作してきました。

２０１３年７月号からリニューアルし、「単行図書のご案内」とともに企画し、青年グループの録音を使ったり、グループの枠を越えて製作してきました。

２０１４年４月号からは、「神戸 YWCA グループ」と「神坂（こすもすグループ）」が交代で製作することになりました。

その後、「単行図書のご案内」は独立して「単行図書だより」となり、「**つちのこ**」は、現在、春（神戸 YWCA）・秋（神坂・冨澤コンビ）の年２回の発行となっています。

神戸 YWCA グループでは、グループ全員で取り組むよう、発行の１０ヶ月ほど前から内容を検討し、月１回の勉強会を通して読みの練習を行い、録音・編集しています。

一人で一つの作品(本)を録音し仕上げることはなかなか難しいですが、みんなで取り組むことによって、いい経験になり達成感と読みの上達も感じられます。
ここから単行図書の製作にも繋げようとしています。

高橋晶子（神戸 YWCA）

プログラムの名称である「**つちのこ**」は実体のない生き物だから、ソース(source)は自由に偏らないでいいというコンセプトを引継ぎ、「朗読カフェバー」といったモチーフでおしゃれな文学を楽しんでいただけるよう、「大人のメルヘン」をお届けすることに重点を置いています。

神坂順子（こすもす）・冨沢ナオキ（ゆうゆう会）

過去（2018 年以降）の内容：

浅田次郎作「月下の恋人」より「情夜」、落語の演目より「死神」「さぎとり」
サマセット・モーム作「蟻とキリギリス」、オー・ヘンリー作「善女のパン」、
宮部みゆき作「本所深川ふしぎ草紙」より「送り提灯」
瀬戸内寂聴著「一人でも生きられる」より「女が生涯に一人の男を愛するとき」
瀬尾まなほ著「おちゃめに１００歳寂聴さん」より「寂庵の一日」
宮部みゆき作「本所深川ふしぎ草子」より「足洗い屋敷」
行成薫作「本日のメニューは。」より「或る洋食屋の一日」
森絵都作「ショート・トリップ」より「旅人の椅子」「脱サラの二人」「いとしのローラ」
「世界観を変える驚愕の島」「バン爺の旅行鞄」
「フルーティ・デイズ」「ドクター・ガナイの航海記」
「残酷なお人好したちの里」
「注文のいらないレストラン」

（以上、神戸 YWCA）

乙川雄三郎作「トワイライトシャッフル」より「サヤンテラス」
河合隼雄作「泣きむしハアちゃん」より
浅田次郎作「月島慕情」前編・後編
山本周五郎著「日本婦道記」より「墨丸」
内海隆一郎作「人々の旅路」より「真珠のネクタイピン」
江國香織作「ぬるい眠り」より「ラブミー・テンダー」
日本童話集より「天稚彦物語」

（以上、神坂・冨沢・直田）

リスナーだより

中原真理子さま　２０２３．４．１１

花時計３月号

・ホストファミリーあるある対談ですが、はじめてこのことを知りとても楽しく聞かせていただきました。なかなか経験することもそんなにできないし、受け入れるのも難しいことなのだなと思いました。それぞれの国の留学生を招き入れて言葉や文化や食べ物の違いに苦労され日本に慣れようとする留学生の苦労も並大抵ではなかっただろうし、壁も厚かったと思いました。インドネシア料理とかのレストランを探すのもなかなか大変なことだなと思いますし、国によって習慣も違うので、慣れるのにはさぞ苦労されたことだったのだろうと思いました。かっぱえびせんの夕食を留学生が作ったなんて、外国にもあるのだなとびっくりです。
なかなか聞けない話もしてて良かったです。モスクにも行けて良かっただろうなと思いました。日本語も難しいのでよく覚えられるものだなと感心し、アニメを見て覚えたりして、言葉を覚えるのは苦労したのだろうなと思いました。もっと留学生が日本人と交流する場も必要になってくるのではないかと思いました。草の根交流も大事なことだけど、少ないようにも思うので、もっとできたらいいと思いました。外国人がおせち料理を食べるのも良い経験だなと思いました。

・この絵本を初めて知りました。とても面白くてユニークで良かったですよ。何冊かあったけどどれも面白かったですが、本に関する話なんて初めて聞きましたよ。でも、１年間２人の男が旅に出て世界中で集めた本なんて目の見えない王様には面白かったのかなと不思議に思えました。でも、本によっての発見もあるので、それはとても不思議なことだなと思いました。
本によりピカピカなのとボロボロなのと、やはり読む人のことにもあるのかもしれないと思いました。やはりそれぞれの章に本にとっての人生が分かれているのだなと感じましたが、うまく本を人間になぞらえているかのようだなと思いました。王様も満足で供の話を聞き良かったなと思いました。でも王様が亡くなったのは本当に惜しいことだけど、本当に聞けてよかったなと思いました。２人の男は裁判にかけられ可哀そうだけど、何かあったのだろうけど、仕方のないことだなと思いました。

・中央区の北向き地蔵の話は初めて知りましたが、行ったことはないけれど、古いのだろうなと思いました。民話も初めて知りました。古い民話のようですね。なんの被害にあっても地蔵が残っていたとは奇跡だし、不思議なことだなと思いました。

・変わる言葉のエッセイも楽しく、聞かせていただきましたが、なるほどなと感心しました。

香山良樹さま　２０２３．４．２５

声のアルバムありがとうございます。
視覚障がい者のいろんな情報ありがとうございます。
今はかなりの速さで時代が進んでいます。なかなかついていけませんが、これからも情報をお願いします。

リスナーからのお便り
他にもボランティアルームのホワイトボードにも掲載しています。